

APSAO (Asia-Pacific Society for Artificial Organs) 8th Joint Congress 参加印象記

東京科学大学総合研究院生体材料工学研究所

岸田 晶夫

Akio KISHIDA



第8回APSAO Joint Congressが2024年12月4日～6日の日程で、オーストラリア・クイーンズランド州ゴールドコースト市のGriffith大学を会場として開催された。ゴールドコースト市は、多くのビーチやゴルフ場、テーマパークを有するオーストラリア最大の観光保養地として知られている。日本からはゴールドコースト空港のほか、約80 km北に位置するブリスベン空港も利用できる。ブリスベン空港からは鉄道がゴールドコースト市外まで延びており、空港からゴールドコースト方面への電車に直通している。郊外の駅でトラム（路面電車）に乗り換えると、Griffith大学を経由してビーチ（Surfers Paradise）まで容易に移動できる。ビーチ周辺にはホテルやショッピング街が集まっており、そこからトラム・バスを中心とした多くの移動手段があり便利である（図1）。

昨年のマレーシアでの開催に続き、今回も対面での開催となった。参加者は88名で、オーストラリア、日本、中国、マレーシア、米国、スウェーデンから参集していた。名称が“Joint Congress”となっているのは、12月4日にAustralian Mechanical Circulatory Support (AUSMCS) symposiumが併催されているためで、APSAOは12月5日と6日の2日間で開催された。

Prof. Emeritus Tansley大会長の意向で、ドレスコードはカジュアル（できればTシャツと短パンで）との連絡があったように、会はフランクかつ和やかな雰囲気で進められた。Prof. Lee Smith (Griffith大学)、大会長、松宮護郎理事長 (APSAO President, 図2)、西中知博先生 (APSAO 事務局 局長) の挨拶の後、APSAOプログラムの1番目はECMO

(extracorporeal membrane oxygenation) と VAD (ventricular assist device) の移植を経験した患者とその母親を招いてのセッションであった。コロナ禍で重篤な状況に陥った青年の救命の状況を、患者本人を交えて紹介された。工学研究者である筆者にとっては、ECMO、VADなどの医療技術の高度な運用だけでなく、医療スタッフや家族の熱意の重要性を再認識した内容であった。その後、Prof. Xiaocheng Liu (President, TEDA International Cardiovascular Hospital) によるKeynote, mechanical circulatory support (MCS) セッションで増澤 徹先生、西中先生による招待講演と4件の発表、引き続きPanel Discussion「Is MCS/AO a Waste of Time? Is something better going to come along in 20 years?」のセッションで松宮理事長、西中先生ほか5名のパネリストが登壇して討論を行った。夕刻には、ビーチに移動してバーベキュー形式のCongress Dinnerが行われた。

2日目は、industry-focused sessionsからスタートし、



図1 ゴールドコーストのビーチ (Surfers Paradise)

■ 著者連絡先

東京科学大学総合研究院生体材料工学研究所
(〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-10)
E-mail. kishida.mbme@tmd.ac.jp



図2 松宮理事長の挨拶



図3 Dr. Daniel Timms (a) と BiVACOR® (b)



図4 参加者集合写真

BiVACOR®の開発者であるDr. Daniel Timmsの Keynote Presentationと4件の企業関係の発表があった(図3)。続いて、循環器以外の人工臓器とtissue engineering, 臨床に関連した研究, モデリングの研究とそれぞれのセッションが行われ, 幅広い研究領域がカバーされた総合的な人工臓器治療の意見交換の場となった。

講演の合間にGriffith大学内にあるインキュベート施設の見学があり, その中で活動しているBiVACOR®の実験室なども見ることができた。クイーンズランド州やGriffith大学が, 医療工学に積極的な支援を行っていると感じられた。近年のAPSAOでは中国の人工臓器研究の進展が目立つが, 他にも地域特有の問題解決提案など, APSAOは米国, 欧州とは異なる人種構成であるアジア太平洋地域の人

工臓器・医療工学研究者が集って議論できる貴重な機会である(図4)。8回目を迎えて, 着実にAPSAOのネットワークが構成されつつあると感じるとともに, 日本のプレゼンスをより一層, 高める必要性も感じた。

謝辞

APSAO 2025の情報と集合写真(図4)は大会長のProf. Geoff Tansleyよりいただいた。Information and group photo of APSAO2025 were provided from Prof. Geoff Tansley, Conference Chair.

図3の写真は増澤先生よりいただいた。

本稿の著者には規定されたCOIはない。